

第 42 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：平成 28 年 11 月 25 日（金）16 時 30 分～18 時 30 分

会 場：東北大学災害科学国際研究所 1 階 多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：災害医学の可能性

1. 16:30-16:50 （発表 20 分）

タイトル：「エビデンスに基づく災害精神医学の確立における基礎研究の重要性」

報告者：**兪 志前**（災害医学研究部門 災害精神医学分野）

災害後のメンタルヘルス対応の必要性は広く社会に認識されるようになってきたが、限られた財源、社会資源の中で、誰にどのようなメンタルヘルス支援を行うことが有効であるのかについてはほとんど検討がなされていない。発表者はこれまでに、東日本大震災後の大規模コホート研究と基礎医学の融合により、個々人に合わせた必要かつ有効な介入を行う技術開発に参画してきた。本セッションではこの取り組みを紹介し、学際連携による研究の発展と社会実装の可能性について検討する。

2. 16:50-17:10 （発表 20 分）

タイトル：「基礎医学研究者の研究モチベーションに対する震災の影響」

報告者：**三木 康宏**（災害医学研究部門 災害産婦人科学分野）

文部科学省の科学技術基本計画では、基礎研究は「多様性の苗床」とであると表現されている。一方、災害直後に必要とされることは、これから先のための「苗床」ではなく、結実した「実」であることは当然の考え方である。そのため、基礎研究を行う者の中には「こんな時に研究をすることに意味があるのか？」という疑問を抱いた方も多いのではないだろうか。震災が研究モチベーションに与えた影響について、生命科学・医学研究者を対象にアンケート調査を行った。その結果について紹介する。

3. 17:10-17:30 （発表 20 分）

タイトル：「災害×医学～生きる力の 4 段活用」

報告者：**杉浦 元亮**（人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野）

「災害を生きる力」は災害の危機回避・困難克服に資する性格・考え方・習慣の主要 8 因子である。このコンセプトと質問紙は、被災者のメンタルヘルス向上の技術開発にどのように貢献しうるのだろうか。また脳機能計測という医学的技術との融合でどのような災害科学を開拓しうるのだろうか。11 月中旬に開催された第 5 回被災後心理学的介入国際ワークショップ（PIAD; マニラ）の参加報告と併せ、災害医学の可能性について 4 項目の提案を行う。

4. 17:30-17:50 （発表 20 分）

タイトル：「医療機関の災害時の機能を確保するための道路計画」

報告者：**奥村 誠**（人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野）

公共財源のひっ迫する中、道路整備の費用対効果の精査が重要となっている。近年では心臓発作等の緊急時や災害時の医療機関への時間距離の短縮による「救命機能」向上効果の評価方法に関心が集まっている。本発表では地震災害時の医療機関の救命機能維持のために、医療施設の耐震化と傷病者を輸送するための道路の耐震化を統合的に進める必要性を示し、整数混合線形計画法による効率的な整備案の計算方法を述べる。

総合討論（17:50-18:20）

司会：**江川 新一**（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）